

新潟日報社・  
新潟国際情報大学

# 連携

# 講座

## ◆開講記念講演会

講師／作家 工藤美代子

## ◆につぼう新聞塾

新潟日報社は11月から新潟国際情報大学エクステンションセンターのオープンカレッジの一環として、一般市民、学生を対象とした連携講座「につぼう新聞塾」を開設します。どなたでも受講できます。ふるってご参加ください。

また講座開設を記念し、本紙朝刊に「海続く果て 人間山本五十六」を連載した作家・工藤美代子さんの講演会を開催します。

新潟日報社・新潟国際情報大学



工藤美代子さん

## 開講記念講演会

- 日時／平成16年11月6日(土) 午後2時から午後3時30分まで
- 会場／新潟国際情報大学新潟中央キャンパス(新潟市上大川前通7)
- 講師／作家 工藤 美代子さん
- 演題／「新聞報道と山本五十六」
- 定員／先着200人 聴講無料

## につぼう新聞塾

- 日程／平成16年11月～平成17年3月
- 11月13日(土)——「拉致報道の原点」
- 12月11日(土)——「選挙報道のだいご味」
- 1月15日(土)——「情報化社会と地方紙」
- 2月19日(土)——「報道と人権のはざままで」
- 3月12日(土)——「社説に求められるもの」
- 時間／講座はいずれも午後1時30分から午後3時まで
- 会場／同大学新潟中央キャンパス
- 定員／50人
- 受講料／一般3,000円、学生2,000円(5回分)

### 【申し込み】

いずれも往復はがきに郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号と「講演会」か「につぼう新聞塾」かを明記し、〒951-8068 新潟市上大川前通7 新潟国際情報大学エクステンションセンターへ(両方申し込み可)。「につぼう新聞塾」は同大学のホームページからも申し込みできます。

### 【お問い合わせ】

新潟日報社読者文化センター情報文化部  
TEL.025-378-9472



# 新潟日報社・新潟国際情報大学 連携講座

## 【開講記念・工藤美代子講演会】

### ■演題／「新聞報道と山本五十六」

2003年1月から、本紙朝刊連載小説で「海続く果て 人間山本五十六」を350回にわたって執筆、好評を博した著者が、豊富な取材メモの中から、平和を強く望んだ人間 山本五十六の素顔に迫り、その思いを語る。

〈くどう・みよこ〉1950年東京生まれ。カナダのコロンビア・カレッジ卒。主な著書に本紙連載を単行本にした「海燃ゆ 山本五十六の生涯」、「工藤写真館の昭和」（講談社ノンフィクション賞受賞）、「野の人 會津八一」「黄昏の詩人 堀口大學とその父のこと」「神々の国ラフカディオ・ハーンの生涯」ほか。東京都在住。

## 【にっぽう新聞塾】

### ■11月13日(土)「拉致報道の原点」：高橋正秀編集委員

本誌連載「拉致・北朝鮮シリーズ」は「膨大な資料と克明な記録を残し、地方紙の存在感を存分に示した。涙なしには読めない」と絶賛され、平成16年度日本新聞協会賞を受賞した。担当した編集委員デスクが「心震えるドキュメント」の原点を語る。

### ■12月11日(土)「選挙報道のだいご味」：小田敏三編集局次長

2議席独占を狙う自民党県連の野望が瓦解した参院選新潟選挙区、県政史上最多の候補者が激戦を繰り広げた知事選。はたして民意はどこにあるのか。歓喜の涙と無念の涙が交錯する最大の間人ドラマ。怖さとおもしろさを併せ持つ選挙報道のだいご味を語る。

### ■1月15日(土)「情報化社会と地方紙」：本間正一郎メディア情報センター長

時空を越えリアルタイムに情報を入手できるインターネットがもたらした情報化社会は、情報はらんの時代でもある。永い歴史を刻んできた情報産業の老舗・新聞は、多メディア時代をどう乗り越えるのか。地方紙の役割とメディアリテラシーを考える。

### ■2月19日(土)「報道と人権のはざままで」：塩沢拓夫元編集委員

続発する事件事故報道を中心に報道被害や集団的加熱取材が指摘され、マスメディアに対して厳しい批判の目が向けられている。人権意識の高まりと伝える側の「表現の自由」のせめぎ合いの中から、真実に迫る報道の意義と「知る権利」のあるべき姿を探る。

### ■3月12日(土)「社説に求められるもの」：佐藤準二論説副委員長

ニュース速報が瞬時に世界をかけめぐる現在、新聞の「ジャーナリズム機能」がますます重要性を増している。情報を分析し、解説と論評を加えて指針を示す社説は依然として「新聞の顔」である。ジャーナリズムの原点「社説」の役割を見つめ直す。